

○司会 それでは、本日のヒアリングを始めさせていただきます。

本日は東京都農業協同組合中央会の皆様でございます。

（東京都農業協同組合中央会 入室）

○司会 最初に、要望書の手交をお願いいたします。写真撮影を行いますので、マスクをお外してください。

（要望書手交）

○司会 どうもありがとうございました。どうぞご着席ください。

それでは、ヒアリング及び意見交換を始めさせていただきます。

冒頭、知事から一言お願いいたします。

○小池知事 今年もあっという間に過ぎようとしておりますけれども、今日、今年いろいろとイベントなどでも一緒にさせていただき、農業男子ではないの。あ、そうですか、皆さんも、元気な皆さんにお会いできて、とても心強く思いました。

今農産物を取り巻く、農業を取り巻く状況、東京だけではなく、肥料の話とかですね、様々ございましたけれども、都民の暮らし支えていただいておりますことを感謝したいと思います。

短い時間ではございますが、ご要望等を伺わせていただきます。よろしくどうぞ。

○司会 それでは、都へのご要望につきましてお聞かせください。よろしくをお願いいたします。

○東京都農業協同組合中央会（城田代表理事長） 東京中央会の城田でございます。今日はよろしくお願い致します。

小池都知事をはじめ都関係者の皆様には、都民の生命・生活を守るために、日々新型コロナウイルス感染症対策にご尽力いただいていることに対しまして深く感謝申し上げたいと思います。

今般のウクライナ情勢や世界的な穀物需要の増加、またエネルギー価格の上昇によりまして、農業生産資材価格が高騰しております。特に肥料の価格が、昨年度より1.4倍にも上昇しておりまして、農家の営農継続の先行きが不透明となっております。

そのような中、東京都は農業者への支援策を速やかに決定していただきまして、誠にありがとうございました。特に堆肥の購入費用の一部を補助する制度や農業資材の購入費用の一部を補助する制度、これも生産者にとりまして非常にありがたい制度でございます。さらに農家の収益を向上させるために、庭先販売で使える野菜の自動販売機、農産物を計画出荷するために必要な保冷库や加工するために必要な機器類の購入費用の一部を補助する制度について、こちらは7月より実施していますが、266件の農家が補助金を活用させていただきたいと手を挙げたところでございます。農業生産だけでなく、販売にもご支援いただき、おかげさまで都内農家からも感謝の声が多く届いております。改めてお礼を申し上げたいと思います。

さて、このようなウクライナ情勢下における価格高騰の問題は、私たちに改めて食料安

全保障の在り方について問題提起しているのではないのでしょうか。

J A東京グループでは、引き続き安全・安心な食料生産を行っていくとともに、東京農業を、環境・まちづくり・教育など様々な分野に太い枝を広げる産業に育て、都民・国民が農業に関心を持ち、大切に思うようにしっかりと取組を進めてまいります。

そのためにも、引き続き東京都のご協力とご支援をいただきたく、これより要望を申し上げます。

それでは、要望書をご覧いただきたいと思います。要望書の1番、ウィズコロナ・ポストコロナを見据えた東京の産業への総合的な支援をお願いしたいと思います。

新型コロナウイルスによる影響が長期化している中、ウィズコロナ・ポストコロナを踏まえた社会経済活動が求められております。二次産業、三次産業が元気にならないと一次産業も元気になりません。厳しい経営環境に置かれている都内事業者に対し、引き続き機動的な措置を行っていただきたいと思います。

また、先ほど申し上げたとおり、ウクライナ情勢や原油価格高騰による農業生産資材費の急激な値上げなどによりまして影響を受ける農業者に対して、支援を継続していただきたいと思います。

さらに、東京に残された貴重な農地・緑を将来に向け保全し、この農地の持続的利用を確保するため、担い手に対しての引き続き積極的なご支援をお願いしたいと思います。

続いて、要望の2番目でございます。地場産農産物の魅力発信・消費拡大でございます。

地場産農産物の魅力を広く発信することで、消費者に地場産農産物の価値を認知してもらうことが重要です。都民自らが進んで都内農産物を購入する消費行動を促す取組をぜひお願いしたいと思います。

また、今年は東京味わいフェスタと東京都農産物品評会を同時期で開催いたしました。東京都農産物品評会は長年にわたりまして11月2日、都市農業の日に合わせまして明治神宮において開催してきましたが、より多くの都民の目に触れる機会を創出するため、今年度より東京国際フォーラムに場所を移したわけでございますが、同時期にやって非常によかったというのが率直な感想でございます。東京都農産物品評会に出品された農産物の一部はキッチンカーやレストランに無償提供し、イベントの食材として有効活用されました。また、都内複数のフードバンクへも提供をさせていただきました。来年度以降も継続的に東京都農産物品評会と東京味わいフェスタを同時期に開催できるように、引き続き東京都と連携して取り組んでいきたいと考えております。

結びになりますが、今後も小池都知事をはじめ東京都職員の皆様のご指導をいただきながら、J A東京グループの取組を進めてまいります。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

○司会 どうもありがとうございます。

それでは、知事からコメントお願いいたします。

○小池知事 私から最初の東京の農業への総合的な支援ということのご要望です。

原材料価格が高騰したり、厳しい経営状況が続く農業者をサポートする、そのために飼料、それから肥料に係る負担の軽減、生産を効率化する取組への助成など、支援を進めてまいります。

また、農業の基盤となります生産緑地を維持するためのサポート、様々な担い手、新たに確保する新規就農者の確保など取組を進めていくことで、東京農業の振興を図ってまいります。かつてから少子化ショックというので、1.57ショックっていうのはあって、みんなそれが分かっているながら、ずっとここまで何かやってるようなやってないような、になったら、もう今やもうどんどん減ってきてるわけですね、子供の数がね。

○東京都農業協同組合中央会（城田代表理事長） そうですね。

○小池知事 この緑地、緑もそうだと思うんです、みんな分かってるんですよ、これから減っちゃうなというのがね。だから、そのまま何もしないでいいんですかっていうところなんだろうと思うんです。ただ、それとコストと、かかる人とその辺りの話だと思いますけれども、今申し上げましたように、人の問題、それから緑を守る問題など、総合的に支援を進めてまいります。

○東京都農業協同組合中央会（城田代表理事長） よろしくお祈りします。

○司会 産業労働局長からもお願いいたします。

○産業労働局長 地産地消の話と東京味わいフェスタ、2つお話をいただいたと思っております。

地産地消について、これは農業生産を増やすということと、あと、農業へ理解をする、子供の世代、さらには普通のほかの世代の方も共通して理解をしていただく上では非常に重要だと思っております。区市町村で学校給食がありますので、そこに東京産の農産物を入れてもらうというような取組を我々後押ししておりますし、イベントなど、いろんな機会を使ってPRをして、地産地消を進めるということをしておりまして、これを引き続き充実させていくということを今検討しているところでございます。

それと、味わいフェスタ、東京味わいフェスタですけど、10月の28、29、30と3日間で4エリアでやったわけですけど、15万人を超える来訪者があったと。非常に東京産食材の魅力を発信する上で効果の高い取組となったと思っております。これを引き続きしっかりとやると同時に、お話しいただいた東京都農産物品評会、こちらのほう、今年から東京国際フォーラムのほうに移してやっていただいて、これは人の流れもいろいろあった関係で、非常に効果が高まったというふうに思っておりますので、こういった工夫を積み重ねながら、農業振興ということにしっかりと結びつけていって、いきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお祈りできればと思います。

○司会 ご要望いただきました2点について、都側のコメントをさせていただきましたが、よろしゅうございませうか。何か。

○小池知事 あと、JAPANキャンペーン、今日もパン、セブン-イレブンの持ってきましたんで、引き続き。あと、よく考えればお米、要はこれ米粉ですけど、要はお正月に

お餅を1個ずつ全国民が多く食べるということが直接的でいいのかなと思ったりします。

○東京都農業協同組合中央会（城田代表理事会長） 何かセブン-イレブンさんでも随分売上げが上がってきてるって聞いてますから、これからちょっと楽しみにはしてます。

○小池知事 東京産ブルーベリージャムをつけてと。

○東京都農業協同組合中央会（城田代表理事会長） 小池都知事のますますのプッシュをよろしくお願ひしたいと思います。

○小池知事 はい。

○東京都農業協同組合中央会（城田代表理事会長） 我々は一生懸命やりますんで、よろしくお願ひします。

○小池知事 頑張りましょう。ご苦労さまです。

○東京都農業協同組合中央会（城田代表理事会長） よろしくお願ひします。

○司会 どうもありがとうございます。

それでは、これもちましてヒアリングを終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。